

📍**カーバ神殿** メッカの大モスクの中央にあり、石造で高さ15mの立方体(カーバは「四角体の建物」の意)。コーランの言葉が刺繍された黒い幕で覆われている。東隅の壁の下に、神聖視される黒石がはめこまれている。古くから、アラブ人の多神教崇拜の場であったが、その中の1つ、アッラーの神がムハンマドにより唯一神とされてから、イスラム教の聖堂とされた。イスラム暦12月に世界中から巡礼者が集まり、黒石に接吻し、神殿の周りを7回まわる。

1 イスラム教の特色

六信(イスラム教徒が信じること)

- **アッラー** 唯一絶対の神、万物の創造者
- **啓典** 「コーラン」(P24016史)が最も純粋に神の言葉を示す。他にモーセに下された「律法の書」、ダヴィデに下された「詩篇」、イエスに下された「福音書」があるが、それらは人為的改変ありとみる
- **預言者** モーセ、ダヴィデ、イエス、ムハンマド
- **天使** アッラーと地上との間に存在し、両界を媒介
- **最後の審判** 審判の日、生前の善行・悪行の多寡により、天国と地獄にわかれる
- **天命** 人間の諸行為はすべてアッラーが創造したもの。神の意志は人間の意志・行為を通じて現れる
※以上よりイスラム教では聖職者階級なし。アッラーの像を表現することを禁止。ムハンマドを崇拜することを禁止

● 礼拝の仕方



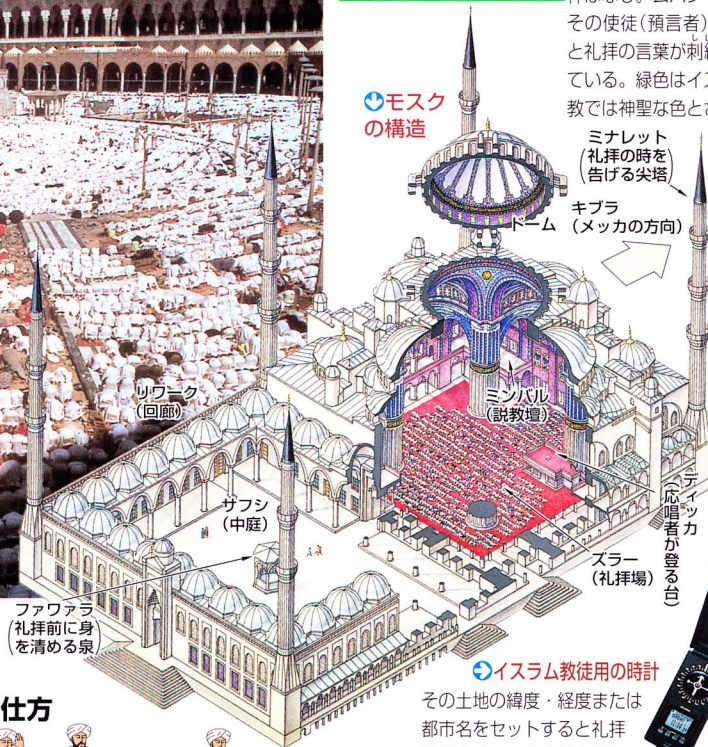
五行(イスラム教徒が行うこと・義務)

- **信仰告白** 「アッラーの他に神はなし。ムハンマドはその使徒なり」という言葉を証言すること
- **礼拝** 1日5回(日の出前・昼・日没前・日没後・夜)、1回約20分、メッカの方向に向かって居あわせた場所で行う。金曜日の正午は最奇りのモスクで集団礼拝
- **喜捨** 年1回行われる貧しい人々への施し。一定額が決められた一種の財産税
- **断食** イスラム暦9月の1か月間、日中に一切の飲食を断つ。人間の煩悩を抑えると共に、貧しい人々の心労を体験する
- **巡礼** 一生に1度はイスラム暦12月にメッカのカーバ神殿に巡礼することが望ましい。儀式に参加することで民族・貧富等を越えた同朋であることを悟る



📍**サウジアラビアの国旗** 「アッラーの他に神はなし。ムハンマドはその使徒(預言者)なり」と礼拝の言葉が刺繍されている。緑色はイスラム教では神聖な色とされる。

📍モスクの構造



📍イスラム教徒用の時計

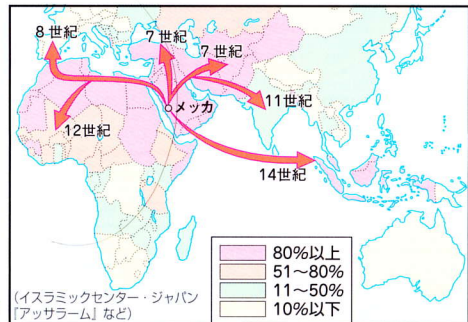
その土地の緯度・経度または都市名をセットすると礼拝時刻とメッカの方角を表示。



📍**ムハンマド(570頃~632)**
よげんしゃ
— 正直な預言者 —

メッカを支配していたクライシュ族のハーシム家に生まれ、幼い時に両親を失う。隊商貿易に従事し、酒も賭博もやらず正直者とよばれ、25歳の時に豪商の未亡人ハディース(40歳)と結婚。安定した生活を送っていたが、40歳の頃にメッカの道徳退廃に矛盾を感じ瞑想をしていたところ、神の啓示を受けたという。以後20年余り布教を続けた。

2 イスラム教徒の分布



イスラムの女性

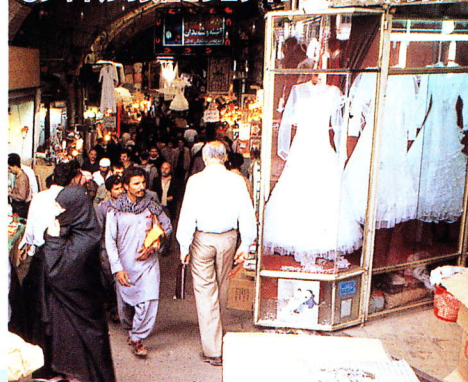
イスラム世界の女性の社会的位置づけや暮らし方は、地域により大きく異なり欧米の影響も強い。

📍**結婚** イスラム法では男性は4人まで妻をもつことができるが、2人以上の妻をもつことはきわめてまれであり、法的に一夫多妻を禁じている国もある。

📍**離婚** 離婚の際、結婚生活の中で夫が妻に贈与したものはすべて妻の財産となる。夫から離婚請求した時は、夫は結婚資金の半額を慰謝料として妻に支払う。

📍**仕事** 女性は家庭を守るべきという考えが強いが、シリア・イラク等では政治・社会進出が盛んである。

📍チャドルの女性とウェディングドレス(イラン)



📍その他イスラム法による禁忌(ハラム)

- ① 飲酒は禁止。見つければ笞打ち40回。
窃盗は手足の切断
- ② 豚肉や異教徒が殺した動物を食べることは禁止
- ③ 利子をとるのは禁止だから、銀行はあっても利子はない
- ④ 結婚に際して、商取引と同じく契約が必要である。契約式では離婚の際の慰謝料も決めておく
- ⑤ 男は平等に愛することができるのなら、同時に4人までの妻を持つことができる
- ⑥ 女は夫以外の男に顔や肌を見せないようチャドルで隠す
- ⑦ 左手は不浄の手、物の受け渡しには使わない

1 イスラム商人の活躍

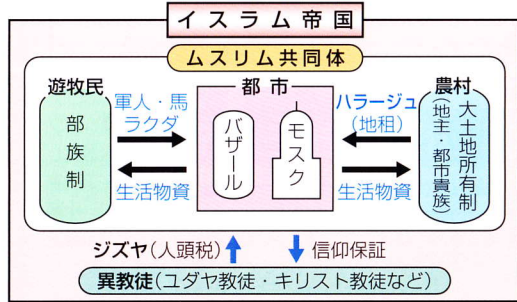


ダウ船(イスラムの交易船)
インド洋の季節風を利用した。アル=ワシデ画(1237年) 国立図書館(パリ)蔵 (P58写)



イスラム商人の旅
1頭のラクダに200kg以上の荷を積み込んだ。西アジアの夏は特に暑いので、日中はキャラバンサライ(隊商宿)で休憩。行動は早朝と夜で、一日平均20~30km進んだ。

2 イスラム社会の構造



イスラム商業が栄えた理由

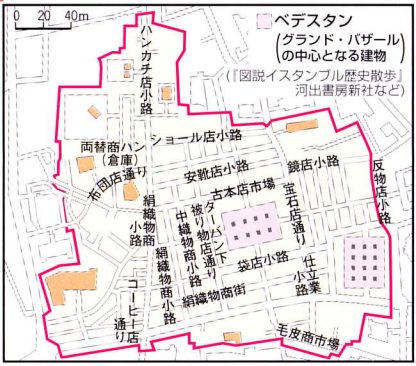
- イスラム教による商業の肯定** キリスト教では商業活動による利益追求を卑しい行為としたが、ムハンマド自身の商人的感覚がコーランに反映されイスラム法の規定として発展。
- 征服による一大商業圏の誕生** 東は中央アジアから西はイベリア半島までがイスラム教とアラビア語のイスラム世界。
- 政府の商業活動の保証** アッバース朝以降、バザールに政府任命の監督官が駐在し、安全な商業活動を保証。
- 世界共通貨幣の発行** 金貨・銀貨の純度・重さが非常に安定し、イスラム世界で金銀二本位制が確立。



金銀貨を天秤で量るイスラム商人

●バザール(スーク)の構造

解説 イスラム世界の市場は、東半分ではペルシア語のバザール、西半分ではアラビア語のスークと呼ばれている。
同一業種が集まって1つの通りを形成しているが、飲食店はどこに開いてもよい。バザールでは、政府の監督官がイスラム法の遵守を監視するが、自主的にも管理されている。商人・手工業者は利益を守るための同業組合を結成し、各々の組合の代表が、徴税、地区内の紛争の処理、犯罪の捜査等、地区の秩序維持を図っている。



バザールの光景(イスタンブル)
狭い通りの両側に、間口2~3mの商店や職人の工房が並び、通りには強い日差しを防ぐためアーケードがついている。飲食店も混在し、活気がある。



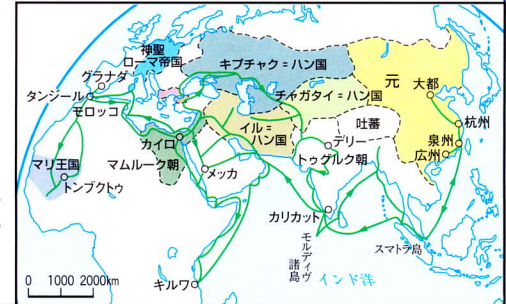
イブン=バットゥータの旅 (1304~??)

イブン=バットゥータは敬虔なイスラム教徒。メッカ巡礼の旅に出かけたことが、30年に及ぶ大旅行となった。帰国後に口述筆記した旅行記から、中世の世界各国の多様さうかがい知ることができる。

1304. 2. 25	モロッコのタンジールで法律学者の家に誕生
1325. 6 (21歳)	タンジール出発→北アフリカ横断→カイロへ(1326)
1326. 10 (22歳)	メッカのカーバ神殿で礼拝
1330(1329)	アラビア半島→海路アフリカ東岸→キルワへ
1331~1333	小アジア・黒海・中央アジアをまわる
1333. 9 (29歳)	インドのトゥグルク朝着、法官として7年間滞在
1344. 4 (40歳)	スマトラ島を経て、翌年中国の広州・泉州・大都へ
1348. 11 (44歳)	メッカへ
1349. 11 (45歳)	モロッコに帰る
1351	キリスト教徒と戦うためスペインへ(グラナダ訪問)
1352~1353	サハラ砂漠縦断→トンブクトゥへ
1354. 1 (49歳)	モロッコに帰る。翌年、『三大陸周遊記』を口述筆記

旅行を可能にしたもの

- 比較的平和な時代であった。
- 旅人の便宜を図る宗教的な集団・施設があった。
- 行く先々で旅費を寄付された。
- 元はイスラム商人を保護した。
- 各地でアラビア語が通じた。
- 豊かな知識が歓迎された。

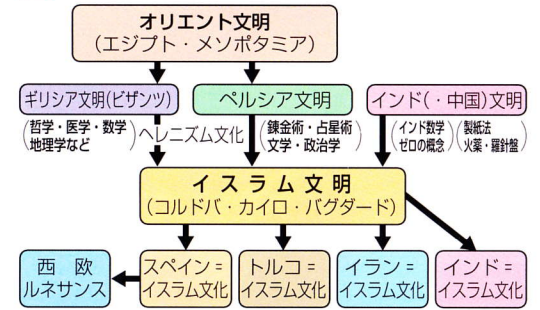


2 イスラム文明

青字：イラン人

◎天文学

1 イスラム文明の形成



音楽に合わせて旋回し、神の啓示を得る。(トルコ・メウレビ教団)

◎**スーフィズム(神秘主義)** 形式化したイスラム教義に対抗して、12世紀以降禁欲的な修行により神との一体感を求めるというスーフィズムが発展し、民衆の間にひろまった。

特色	●イスラム教とアラビア語を主体にヘレニズム・ペルシア・インドなどの文化遺産をとり入れた独自の融合文化 ●バグダード・コルドバ・カイロを中心に発達した都市文明
神学	ガザーリー(セルジューク朝)がスンナ派神学とスーフィズムを融合
法学	コーランの注釈より発達。イスラム法(シャリーア)
歴史学	ムハンマドの伝記研究より出発。イブン=ハルドゥーン(14c.北アフリカ出身)『世界史序説』(『実例の書』)……定住民と遊牧民の交代を軸に歴史哲学を展開
言語学	異民族へのアラビア語教育の必要から発達。文法学・詩学・韻律学の発達
哲学	イブン=ルシュド(12c.ムワッヒド朝) アリストテレス哲学の注釈『医学大全』
医学	アル=ラーズィー(9~10c.イラン出身)『医学集成』 イブン=シーナー(10~11c.サーマーン朝)『医学典範』
数学	ギリシアから幾何学、インド数字からアラビア数字、インドから十進法・ゼロの概念を継承 フワーリズミー(9c.アッバース朝)の代数学、アル=バッテリーの三角法が有名
物理学	物理学は光学・比重の研究が中心。
化学	化学は錬金術より発達。昇華・蒸留・濾過の方法を発明。酸とアルカリの区別
天文学	海・陸のイスラム商業活動の必要から発達。バグダードなどに天文台設置 ファルガーニ『天文学集成』。暦学の発達→元、郭守敬 授時暦
地理学	広域支配・東西貿易・聖地巡礼から発達 イブン=バットゥータ(モロッコ出身)『三大陸周遊記』 イブン=ファドラーン『ヴォルガ=ブルガル紀行』
文学	『千夜一夜物語』(『アラビアン=ナイト』)各地の説話を集大成 (P105C) フィルドゥシー(ガスナ朝)『シャー=ナーメ』(『王の書』), オマル=ハイヤーム(セルジューク朝)『ルバイヤート』(四行詩集) (P241H4), ラシード=ウッディーン(イル=ハン国)『集史』, サーディー(イル=ハン国)『薔薇園』(果樹園) などイラン人の活躍
研究機関	『イブ=アル=ヒクマ』 『知恵の館』, アズハル大学(カイロ)(970), ニザーミーヤ学院(セルジューク朝)
翻訳	アリストテレス哲学などギリシア語文献をはじめ各国の文献のアラビア語訳 イベリア半島(拠点トレド・コルドバ)・シチリア島でラテン語に再訳
建築・美術	ドーム(円屋根)とミナレット(尖塔)を組み合わせたモスク(礼拝堂), アラベスク(幾何学文様), 細密画(ミニアチュール)。アルハンブラ宮殿(グラナダ)

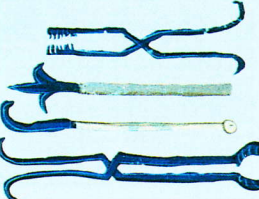


◎**天体観測器具** イスラム世界では、毎日5回の礼拝のための正確な時刻の知識を必要とした。また、アラビア商人の航海や夜間の旅行のため、一定時刻の天体の正確な位置の知識が必要であった。(1581年)イスタンブール大学図書館蔵

高度なイスラム医学

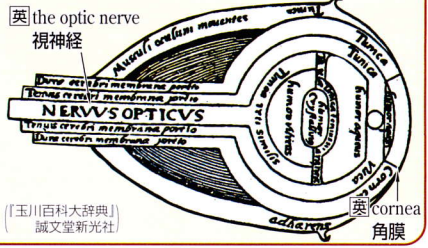
十字軍時代(12世紀),片足に膿腫のできた人を、イスラムの医者は暖めて切開したが、ヨーロッパ人は斧で足を切り落としたという。イスラム医学の水準は高く、イブン=シーナーの『医学典範』は理論と臨床に優れ、ラテン語に翻訳され17世紀まで西欧医科大学の教科書として使用された。

◎イスラム医学の手術道具



◎イブン=シーナー(アヴィケンナ)(10~11c)

◎イブン=アルハイサム(965?~1039?)の眼球構造図



『玉川百科大辞典』誠文堂新光社

B 数字の変遷

ローマ	I V X L C D CD DD CCCL	1 5 10 50 100 500 1000 1000+500+4×100+50
中国	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十	一 千 九 百 五 十
インド	१ २ ३ ४ ५ ६ ७ ८ ९ ०	१ ९ ५ ०
アラビア	١ ٢ ٣ ٤ ٥ ٦ ٧ ٨ ٩ ٠	١ ٩ ٥ ٠
現代	1 2 3 4 5 6 7 8 9 0	1 9 5 0

◎解説 インド数字を改良したアラビア数字が作られ、十進法やゼロの概念の導入と結合し、計算や数学を発展させた。

◎イスラム起源の用語(英語←アラビア語)

- alcohol(アルコール)←al-kuhl(粉末)
- alkali(アルカリ)←al-qali(植物の灰)
- algebra(代数)←al-jabr(再統合)
- alchemy(錬金術)←al-kīmiyā(変成)
- alembic(蒸留器)←al-anbiq(正しい)
- amalgam(水銀と他の金属との合金)←al-malgham(適合)
- lute(リュート)←al-'ūd(木)
- tambourine(太鼓)←tanbūr(琴琴)
- sugar(砂糖)←sukkar(砂糖)
- cotton(木綿)←qutun(カタン糸)
- syrop(シロップ)←shārab(飲み物)
- check(小切手)←sakk(証書)

D 化学



The Metropolitan Museum of Art, Cora Timken Burnett Collection of Persian Miniatures and Other Persian Art Objects. Bequest of Cora Timken Bur nett.1956.(57.51.21)
◎**薬剤師(錬金術師)** 13世紀頃のような。大鍋にいろいろな薬品をいれて煮つめ、調合した薬を左の患者に与えている。薬剤師と錬金術師は、その製法の過程や用具など似ていたが、薬剤師は主として植物を、錬金術師は無機物を扱った。実験を重視した錬金術は薬学や化学の発達を促した。



シエラネバダ山脈

アルハンブラ宮殿

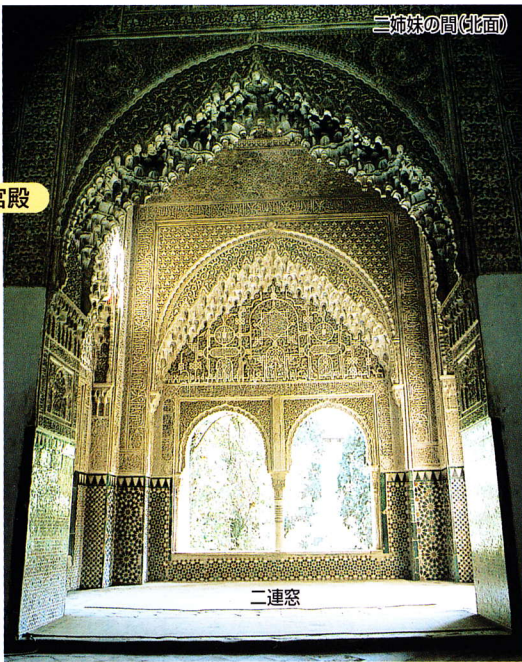


アルハンブラ宮殿

「パルタンの庭」と「淑女の塔」

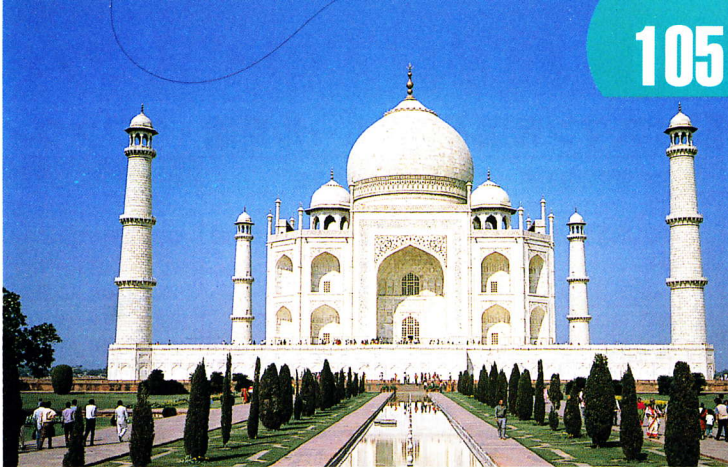
E 建築

解説 イスラム建築には、ミナレット(尖塔)とドーム(円屋根)を持つモスク(寺院)やマドラサ(学院), キャラバンサライ(隊商宿), ハンマーム(公衆浴場), 宮殿, 墓廟などがある。多くの建物は中庭を持ち, 壁にはアラベスク(幾何学文様)が施されている。



三姉妹の間(北面)

二連窓

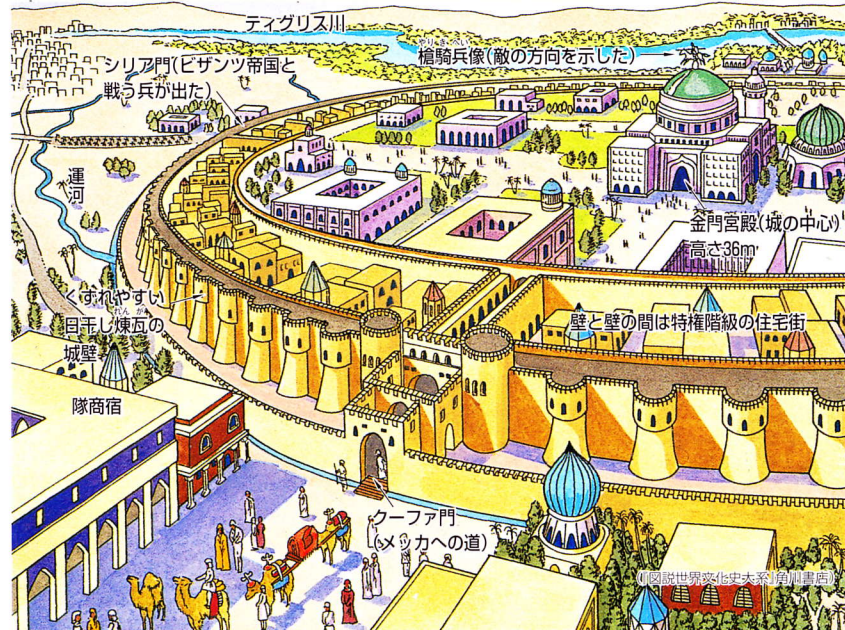


アルハンブラ宮殿 **タージ=マハル廟(アグラ)** インド=イスラム文化の最高傑作。左右対称形で一点透視の効果を計算している。清楚な白大理石が美しい。 (P108写) ドームの高さ58m

岩のドーム(イェルサレム) ウマイヤ朝のイェルサレム征服記念に, ユダヤ教徒が神聖視し, ムハンマドが昇天したと伝えられる巨岩の上に建てられた。 (P248写)



『千夜一夜物語』(『アラビアン=ナイト』)の世界



ティグリス川

シリア門(ビザンツ帝国と戦う兵が出た)

槍騎兵像(敵の方向を示した)

運河

目毛し煉瓦の城壁

隊商宿

壁と壁の間は特権階級の住宅街

クーファ門(メッカへの道)

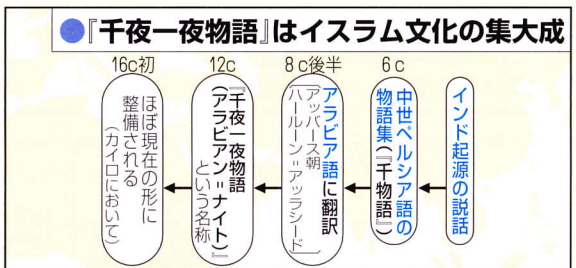
金門宮殿(城の中心) 高さ36m



ハーロン=アッラシード (763頃~809) アッバース朝第5代カリフで, 『千夜一夜物語』の主人公。お供を連れてバグダードの街を歩き回った。

バグダード 円城内は官庁街で一般市民は城外に住む。市場には世界中の商品が集まった。9世紀には人口150万を超え, 6万の礼拝所と3万の公衆浴場があった。

『千夜一夜物語』はイスラム文化の集大成



映画『アラジン』(米・1992年製作) ©The Walt Disney Company



『千夜一夜物語』は, インドやペルシアの説話をもとに, アラビアやエジプトの物語が組み合わされ, 16世紀頃現在の形になった。『アラジンと魔法のランプ』では, 中国の貧しい少年が, モロッコの魔法使いを退けランプの魔神と指輪により巨富を得る。『シンドバッドの冒険』ではバグダードのムスリム商人が前後7回の遠洋航海で大金持ちになる。物語の背景には中国・インド洋・モロッコに至るイスラム商業圏と商人の活躍がある。